



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp URL http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



今後の予定

- 12月 1日(金) 附属小学校公開研究会
- 12月22日(金) 教職大学院授業公開研究会
- 1月23日(火) 教職大学院2期入学試験
- 1月26日(金) 教育実践研究発表会(M2)
- 2月 8日(木)~9日(金) 岩手県教育研究発表会
- 2月16日(金) 教育実践研究中間報告会(M1)
- 3月23日(金) 岩手大学卒業式

黒坂優さん 日本理科教育学会東北支部「院生研究奨励賞」受賞!

黒坂優さん(学卒M2)が、平成29年11月3日に行われた日本理科教育学会東北支部会において「院生研究奨励賞」を受賞しました。研究テーマは、中学校理科における「気象数値実験モデル(CReSS)」の教材化-Web-CReSS for Education:積乱雲モデル-です。教育学部での卒論とM1での気象に関する基礎科学研究(愛媛「脇川あらし」の観測的研究)を基礎に、気象の数値実験を中学生に行わせるために「中学生版インターフェイス」をつくり、実習協力校の盛岡市立上田中学校で教育実践、その成果を報告しました。日々の「教科専門の学び」と教育実践研究の両立を体現する成果といえます。



平成29年度 教育実践研究中間発表会 開催

10月12日

教職大学院生の集大成である「教育実践研究」の中間発表会。発表するのは2年次17名。それを聴くのは来年度同じ場に立つ1年次18名です。研究者教員、実務家教員を交えた質疑によって、発表内容が研磨されていきます。そして、来年度、第一期修生となる17名が学校現場にこれらを発信することになります。当日発表された研究テーマの例を以下にご紹介します。ご期待ください。

- 学校マネジメント力開発プログラム**
 - 「岩手の復興教育」の推進に関する研究-地域学習に視点を置いたカリキュラム・マネジメントをとおして- [現職院生 佐々木 康人]
- 授業力開発プログラム**
 - 数学的な考え方を育てる指導のあり方について-振り返り活動に焦点を当てて- [学卒院生 辻 裕美香]
 - 地域教材を活用した小学校歴史授業の研究-岩手県の地域史教材を通して- [現職院生 菊池 知之]
- 子ども支援力開発プログラム**
 - 中学生の個人-環境の意欲の一致が及ぼす学校適応感に関する研究- [学卒院生 光成 芳]
- 特別支援教育力開発プログラム**
 - 知的障害教育における児童生徒主体の授業づくりはどうあるべきか [現職院生 坪谷 有也]

教員メッセージ

実務家教員 森本 晋也

教職大学院が誕生して一年半が過ぎました。連携協力校・附属学校園や教育行政機関等の連携・協働のもと専門実習が行われています。学卒院生は、教室での教師と子どもが共につくる学びの喜びや息づかいを肌で感じ、現職院生は、様々な体験を通して新たな知見を得るだけでなく、これまでの教師生活の実践を振り返る機会になっています。この専門実習での実践知を、教育理論知を踏まえて振り返ることにより「理論と実践の融合」を図っています。2年次院生は、これらの学びの集大成を、教育実践研究発表会や県教育研究発表会等で発表する予定ですので、是非ご参加の上、ご意見をいただければと思います。



子ども支援力開発実習

【現職院生 (M1)】 金野 浩二

中学校にて「相談員」の体験をしました。相談室に来室する生徒との会話等を通して、生徒の個性やおかれている現状を理解し、必要な支援について考えました。県内の各学校にも、様々な問題を抱えながらも精一杯生活している子どもがいることと思います。環境や個性が異なる子ども一人ひとりを有効に支援するには、どのような見取り方をすればよいのか、また、学校組織はどのようにあればよいのかについて、これからの実習を通して、さらに考えを深めていきたいです。

特別支援教育力開発実習Ⅱ

【現職院生 (M1)】 上川 達也

附属特別支援学校にて、11月13日から23日までの9日間、実習に取り組みます。初めての長期実習で、最終日には学校公開が予定されており、貴重な体験をさせていただきます。附属特別支援学校の大事にしている生徒一人一人が主体的に活動できるための授業づくりの理論と方法を実践的に学び、大学院で学んだ理論をもとに実践との往還を図ります。充実した実習になるよう日々の活動に励みます。



※総合実習は附属幼稚園、附属特別支援学校、附属小学校、附属中学校全校種にて実施されます。

総合実習※(附属特別支援学校にて)

【学卒院生 (M1)】 花館 めぐみ

附属特別支援学校での実習を通し、個への支援が一貫していることに驚きました。朝学習、作業学習はもちろん、休み時間や給食の時間にも個に応じた工夫がちりばめられていました。個の様子を具に見取り、支援方法を少しずつ変えながら成長を見守っていくことは自分の校種での授業づくりにも応用できる部分であると感じました。また、行動の背景にある思いを読み取ること、生徒と生徒をつなぐ支援を行うことなど、幼稚園実習で得られた知見を生かすことができた場面もあり、自分の専門とは異なる校種で実習ができる総合実習の良さを感じています。

総合実習※(附属幼稚園にて)

【学卒院生 (M1)】 菊池 紗江

附属幼稚園での実習では、実際にクラスに入り子どもたちと関わることで、発達段階に合わせた「子ども理解」の重要性を学びました。幼稚園では、教師の関わりが子どもたちに大きな影響を与えます。一方で教師が何かを教えるのではなく、子どもたちが「遊び」や「環境」から学んでいくことが大切です。何気ない行動や言葉から、子どもたちを理解し、一人一人に合わせた手立てを考えることが子どもたちの成長に大きく関わっていくと感じました。